

# God With Us

## Part 7: Kings & Prophets to Exile and Return

Judah's Fall and God's Faithfulness

### Message 14 – The Building of the Wall Nehemiah

神は我らと共に

パート7：王と預言者たちの強制退去と帰還

ユダのつまずきと神の忠実さ

第14メッセージ-分離壁を築く

ネヘミヤ記

## はじめに

ネヘミヤ記は、400年間の沈黙の歳月に入る前の旧約聖書最後の歴史的書である。預言者エズラが捕囚帰還した後、約12年後に帰還したネヘミヤと共に、エルサレム周辺の壁を再建において人々を導き、訓戒する物語を記す。ネヘミヤは、神に仕える忠実な指導者であり、聖霊に満たされ、絶大な信仰と勇気と情熱があった。苦難に置かれた国が、町とその周辺の城壁、文化、そして最も重要であるヤハウエとの関係を再建する際に、反対者たちを克服し、人々を導いたとして、聖書の中で最高の指導者の原則を実行した。

ネヘミヤの性質を示す箇所以外の部分で、この物語は、神のその民への忠実さを明らかにしている。民は、神との契約から繰り返し漂流してしまった罪にもかかわらず、ヤハウエである神は、あわれみ深く罪をお赦しになり、エルサレムの町を再建された。再建後も民は、繰り返し神から漂流し続けるが、忠実であられる神は、何度も何度も、彼らが神に戻る機会をお与えになった。

物語は、イスラエル国民の生活と霊的生活との密接な繋がりを思い起こさせる。真に「"one nation under God" 神の下に一つの国」と呼ばれた。道徳的かつ、霊的律法に従い、ヤハウエなる神との交わりに歩む間は、健全な国民生活を維持することができた。ネヘミヤは、イスラエルの城壁再建に貢献したが、より重要なことに、神による保証と国家としての成功の真の鍵である神との歩みの再建を助け導いた。

この本は、城壁の再建（ネヘミヤ記1：1-7：3）と人々の霊的生活の再建（ネヘミヤ記7：4-13：31）の2部で構成されている。

## 城壁再建：第1章1節-7章3節

### 1) 人々のために深く思いやり、神に動いてくださるよう祈り求める指導者：第1章

この本は、ネヘミヤがアルタクセルクセス王の献酌官（ぶどう酒の毒見をする人）という重要な地位に就いて仕えていたという紹介から始まる。しかし、その兄弟ハナニがエルサレムから帰ってきたとき、ユダヤの民と町の状態を心配し尋ねた。壁と門が崩壊し、エルサレムの人々は困り果て、悲惨な状況に陥っていることを知り、ネヘミヤは座って泣いた。直ちに何日間か断食をして、神の前に祈りをささげた。ネヘミヤは、真に気にかけて、働きかけたいと願う忠実な人が1人いれば、状況を変えることが可能であるという模倣を見せてくれている。ここにネヘミヤの祈りの短い要約が記録されている。神から離れ続けた国家の罪を告白した後、神の無条件の約束を民に思い起こさせ、この重要な時に、神に彼らを覚えていただくよう祈った。

どうぞ、あなたのしもべモーセに命じられた言葉を、思い起してください。すなわちあなたは言われました、『もしあなたがたが罪を犯すならば、わたしはあなたがたを、もろもろの民の間に散らす。しかし、あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの戒めを守って、これを行うならば、たといあなたがたのうちの散らされた者が、天の果にいても、わたしはそこから彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ所に連れて来る』と。彼らは、あなたがたの大なる力と強い手をもって、あがなわれたあなたのしもべ、あなたの民です（ネヘミヤ記1：8-10）。

神が祈りを聞いてくださり、王の同意を与えてくださるよう祈った。ネヘミヤは、あらゆる指導者決定のためにも、神の御心が成るように祈った！

主よ、どうぞしもべの祈と、あなたの名を恐れることを喜ぶあなたのしもべらの祈に耳を傾けてください。どうぞ、きょう、しもべを恵み、この人の目の前であわれみを得させてください。この時、わたしは王の給仕役であった（ネヘミヤ記1：11）。

ネヘミヤは、祈りの2つの原則の模範を示した。1) 静粛と断食に続く、謙遜さと罪の告白（第一ヨハネ1：9）。2) 神のお約束の引用。私たちが神のみ言を肯定し、信仰をもって立つとき、「神の御心に従って祈る」こととなります（第一ヨハネ5：3, 14, 15）。健全な祈りが伴う生活には、常に神のみ言の健全な知識があります。神のご性質、道、お約束について、知れば知るほど、人生の問題について、より効果的に神に聞いていただくことへと繋がります。イエス様は、言われました：「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

（ヨハネ15：7）あなたが今祈っておられることは何でしょうか？その祈りに関連する聖書箇所を見つけましょう。聖句を引用して祈るとき、心が神ご自身の御心に同調し、神は喜んで応えてくださいます。

## 2) 深い信仰に基づいて確信をもって動く指導者：第2章1-10節

王の献酌官であるネヘミヤが、王の面前で悲しげな顔をする事自体、不適切で危険を冒すことになるが、ネヘミヤの自国民への気遣いは個人的利益に勝っていた。ネヘミヤの悲しみがアルタクセルクス王に気づかれたとき、ネヘミヤは驚いた。ネヘミヤは、神に祈りを捧げた後、王に重大な質問をした。

王に申しあげた、「もし王がよしとされ、しもべがあなたの前に恵みを得ますならば、どうかわたしを、ユダにあるわたしの先祖の墳墓の町につかわして、それを再建させてください」（ネヘミヤ記2：5）。

ネヘミヤはまた、1) エルサレムへの安全な警護を保証する支配者たちに宛てた王からの手紙と、2) 町の門を再建するために必要な木材を与えていただく権限を求めた。王は彼の要求をすべて許可しただけでなく、ネヘミヤを守るために将校たちと騎兵までもつけた。

また王の山林を管理するアサフに与える手紙をも賜わり、神殿に属する城の門を建てるため、また町の石がき、およびわたしの住むべき家を建てるために用いる材木をわたしに与えるようにしてください。わたしの神がよくわたしを助けられたので、王はわたしの願いを許された（ネヘミヤ記2：8）。

ネヘミヤは、何日もの断食を伴う祈りに答えてくださった神に栄光を帰した！しかし、これで任務が楽になるというわけではなかった。エルサレム周辺地域の「役人」であった外国人のサンバラテとトビアの二人が、非常に不機嫌になり、ネヘミヤの働きを妨げようとした。

神が「祈りに応えてくださっている」からといって、その前途に困難がなくなるという意味ではありません。実際、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである（ローマ人への手紙5：3－5）と聖書は教えています。より重要なことは、神のご性質を、まだ個人的に知らない周囲の人たちに示すことが可能であるということです。神のご計画を追求しているにもかかわらず、試練に合うとき、過ちを犯したと解釈して、逆戻りする必要はありません。その状況の殆どは、悪への抵抗を意味します、それゆえ、敵があなたに抵抗し返して来るのです。あなたの必要を神に知っていただき、主の御力によってあなたの任務を前進していただきますように。

### 3) 状況を見定めて戦略を練る指導者：第2章11－20節

ネヘミヤがエルサレムに到着したとき、先ず、黙々と被害を調査した。神がネヘミヤの心に置かれたことを仲間のユダヤ人に打ち明けることなく、夜中に、黙々とひとりで実行した。エルサレムの状態を査定したあと、人々に問題を提示し、ネヘミヤの指導に信頼するよう呼び掛けた。

しかしわたしはついに彼らに言った、「あなたがたの見るおとりに、われわれは難局にある。エルサレムは荒廃し、その門は火に焼かれた。さあ、われわれは再び世のはずかしめをうけることのないように、エルサレムの城壁を築こう」。そして、わたしの神がよくわたしを助けられたことを彼らに告げ、また王がわたしに語られた言葉をも告げたので、彼らは「さあ、立ち上がって築こう」と言い、奮い立って、この良きわざに着手しようとした（ネヘミヤ記2：17，18）。

反対者のサンバラテとトビアは再び現れ、彼らの計画をあざけった。それに対してネヘミヤは、賢明に対応した：

わたしは彼らに答えて言った、「天の神がわれわれを恵まれるので、そのしもべであるわれわれは奮い立って築くのである。しかしあなたがたはエルサレムに何の分もなく、権利もなく、記念もない」。（ネヘミヤ記2：20）

いつ、どのようにユダヤ人にビジョンを投げかけるかを決めるために、ネヘミヤは知恵深く行動しました。エルサレムに戻るや否やぶしつけに、何十年も苦勞して来た人々に壮大な計画を発表するには時期尚早であったことを知っていたので、先に個人的に調べ、情報収集し、今後の課題を見定めた上で、主要な指導者たちと今後のビジョンについて話し合う準備を整えました。そして、神主権の御手を前景に、すでに神がこのビジョンに向かって動き始められたことを明らかにしました。指導者たちが信仰をもって、いとも簡単に「さあ、再建に取り掛かろう（ネヘミヤ2：18）」と応えたこともまた、神の御心であるので不思議なことではありません。

### 4) チームワークの力を解き放つ指導者：第3章

ネヘミヤは、そのプロジェクトに参加したすべての人々へ

の感謝を表すために時間を惜しまなかった。労働者の目録の幾つかの詳細が際立ちます：

- 祭司から始まり、香水製造者、金細工人まで、様々な職業の人々が助けてくれた。
- 何人かの優れた人たちは援助を拒んだ（ネヘミヤ記3：5）。
- シャラムは、その娘たちの助けを借りて建てた（ネヘミヤ記3：12）。
- ハヌンとザノアハの住民たちは壁のより広範囲を修理した（ネヘミヤ記3：13）。
- バルクは熱心に修理した（ネヘミヤ記3：20）。
- 多くは、それぞれの家の近くの城壁再建に取り組んだ。

壮大な仕事には、大規模な労働者を要します。労働者が意欲的な姿勢を保ち続けるためには、最も効果的な持ち場におく必要がありました。労働者たちの尽力が評価される必要があります。ネヘミヤが人々を名前で知っていたという事実も重要です。目的を達成するための手段として人々を利用したのではなく、人々を現実に生活を営んでいる現実の人々として見ました。ネヘミヤが、彼らの傍を歩くとき、労働者たちは、指導者に愛されており、触発されたと感じたに違いありません。あなたは誰を指導する立場におられるのでしょうか？ネヘミヤの例から何を学ぶことができますか？オークポイント教会を通して、神の御国を築く上で、どんな役割を果たしておられますか？あなたの人生のこの季節に、「城壁」のどの部分を築いておられるのでしょうか？

## 5) 反対者によって、目的から逸らされない指導者：第4章

サンバラテとトビアは、ユダヤ人たちが行動を起こしていることを知り、攻撃を強め、ネヘミヤとその一同のやる気を損なわせるために嘲笑し、けなした。ネヘミヤは、祈りに頼った。

「われわれの神よ、聞いてください。われわれは侮られています。彼らのはずかしめを彼らのこうべに返し、彼らを捕囚の地でぶんどり物にしてください。彼らのとがをおおわず、彼らの罪をみ前から消し去らないでください。彼らは築き建てる者の前であなたを怒らせたからです」（ネヘミヤ記4：4，5）。

こうしてわれわれは城壁を築いたが、石がきはみな相連なって、その高さの半ばにまで達した。民が心をこめて働いたからである（ネヘミヤ記4：6）。

ところが、反対派は、エルサレムの城壁の修復がはかどるり、割れ目もふさがり始めたことを聞いた時非常に怒り、彼らはみな共にエルサレムに攻め入り、混乱を起こそうと陰謀を企てた（ネヘミヤ記4：7，8）。

そこでわれわれは神に祈り、また日夜見張りを置いて彼らに備えた（ネヘミヤ記4：9）。

一方、私たちの敵は、．．．彼らの真ん中に入り込んで、彼らを殺し、その工事を止めさせようとした（ネヘミヤ記4：11，12）。

ネヘミヤは防衛対策を強化し、人々に励ましの言葉をかけた：

わたしは見めぐり、立って尊い人々、つかさたち、およびその他の民らに言った、「あなたがたは彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、あなたがたの兄弟、むすこ、娘、妻および家のために戦いなさい」（ネヘミヤ記4：14）。

ネヘミヤは、彼らの士気を高め労働力を促し、武具を装備した。彼らは、必要に応じて、片手で刀を握って敵と戦う覚悟で、もう片方の手で煉瓦を敷いた。

荷を負い運ぶ者はおのおの片手で工事をなし、片手に武器を執った。築き建てる者はおのおのその腰につるぎを帯びて築き建て、ラッパを吹く者はわたしのかたわらにいた（ネヘミヤ記4：17，18）。

ネヘミヤは、神の御心の遂行と戦いに備えるという両方の働きに備えました。私たちは頻繁に、世俗的活動と神聖な活動を分離してしまいがちですが、神に従順になるために、注意深く見ておられる神の御前で行われるとき、すべての「働き」は、神聖なものとなります。剣を片手に握りながら（実践的で常識的手段）、煉瓦をもう一方の手に持つ（神の王国を築く）という状況は、今日の生活において、どのように映ると思われまするか。現代との類似点を思い浮かべることが出来ますか？

## 6) 権限のもとで、すべての人々を世話する指導者：第5章

ネヘミヤは、城壁再建だけでなく、社会活動にも貢献した。捕囚から帰還した共同体の中で、貧しい人たちが金持ちに利用されていることを知ったとき、直ちに行動を起こした。バビロニア捕囚の苦しみを共に体験し、そこから解放されたユダヤ人たちが、今や同胞のユダヤ人によって財政的束縛に置かれているという事実、ネヘミヤは激怒した。高金

利の借金を免除し、直ちに没収した土地を返還するよう要求した。

すると彼らは「われわれはそれを返します。彼らから何をも要求しません。あなたの言うようにします」と言った。そこでわたしは祭司たちを呼び、彼らにこの言葉のとおりに行うという誓いを立てさせた。わたしはまたわたしのふところを打ち払って言った、「この約束を実行しない者を、どうぞ神がこのように打ち払って、その家およびその仕事を離れさせられるように。その人はこのように打ち払われてむなしくなるように」。会衆はみな「アアメン」と言って、主をさんびした。そして民はこの約束のとおりに行った（ネヘミヤ記5：12，13）。

ネヘミヤは、すべての行動を通して、人々の福祉のために真心を示しました。ネヘミヤにとって、これはただのプロジェクトではありませんでした。彼にとって最も重要であったことは、人々とその幸福でした。利己的な利益のために人々を利用した人々に厳しく対応した。恵まれない人々の必要と権利のために、神は、あなたをどのように用いておられるでしょうか。神が、あなたの心に植えられている動機はないでしょうか。

## 7) 誠実さの重要性を心得ている指導者：第6章1－14節

サンバラテとトビアは、城壁建設の妨害が不可能であると考え、ネヘミヤに危害を加えようとした。ネヘミヤを攻撃するために待ち伏せたが、現れなかった。ネヘミヤは、イスラエルの王になることが目的で、城壁再建に取り組んでいると非難したが、ネヘミヤは、事実と反するニュースを広めると主張した。次に、ネヘミヤが信頼する友人の一人を雇

い、殺しに来る者たちの手から逃れるために、神殿の聖所で寝るように誘ったが、ネヘミヤは、それが企てた罠であり、ネヘミヤに罪を犯させ、はずかしめようと企んでいたことを悟った（聖所の中には、祭司たちのみ入ることが許されている。）。ネヘミヤは、平常通り、敵と問題を神に祈りの内に委ねた。

わが神よ、トビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアデヤならびにその他の預言者など、すべてわたしを恐れさせようとする者たちをおぼえて、彼らが行ったこれらのわざに報いてください（ネヘミヤ記6：14）。

#### 8) 仕事が完了するまで粘る指導者：第6章15－7：3節

こうして城壁は五十二日を経て、エルルの月の二十五日に完成した（ネヘミヤ記6：15）。

エルサレムの人々によって、エルサレムの周りの城壁再建に要した日数は、わずか52日間であった。神の力強い助けと人々の忠実で献身的な働きでの展示である。神と人々が共に動くことを決心するとき、短時間で多くのことが起こり得る。その間、反対者は力を失った。

われわれの敵が皆これを聞いた時、われわれの周囲の異邦人はみな恐れ、大いに面目を失った。彼らはこの工事が、われわれの神の助けによって成就したことを悟ったからである。（ネヘミヤ記6：16）

城壁が完成するとネヘミヤは、それが効率的に機能することを確認した。細部に細心の注意を払い、門衛、音楽家、祭司、地区役員、そして町の指導者を任命し、町の安全を確認した。最も重要なことに、ネヘミヤは、主を最優先に崇める誠実な人々を任命した：

わたしは、わたしの兄弟ハナニと、城のつかさハナニヤに命じて、エルサレムを治めさせた。彼は多くの者にまさって忠信な、神を恐れる者であったからである（ネヘミヤ記7：2）。

ネヘミヤのきめ細やかなこだわりは、神のご栄光のための働きであることを証明しています。使徒パウロは、次のように記しています。「何をするにも、人に対してではなく、主に對してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおりに、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである（コロサイ人への手紙3：23, 24）。」ネヘミヤは城壁再建プロジェクトを導き、人々を統治しました。ネヘミヤの模範は、神があなたに与えてくださった役割においてあなたをどのように刺激しますか。

#### 靈的生活の再建：第7章4節－13章31節

城壁が完成し、物語は、帰還した共同体の靈的／道徳的生活の健全な機能を保証するためのネヘミヤの働きへと移る。町再建と、そこに住む人々の靈的生活の再建は全く別問題である。

#### 9) 正しい人を正しい場所に置く指導者：第7章4－73節

ゼルバベルのもとで、元の帰還者グループの系図記録を検索する心を神がネヘミヤの心に置かれた（ネヘミヤ7章のリストはエズラ2章のリストと一致する。）。その目的は、その町と人々の誕生を証明する、合法的ユダヤ人で占められていることを確認できるようにするためであった。また、都市と農村への分布のバランスをとるといふ長期的な目標もあった。彼の目標は、

10家族に1家族がエルサレムの町の中に定住することであった(参照:ネヘミヤ記11:1, 2)。マシュー・ヘンリーが言った通り、「適切に都市を建設すること、その中に適切に人を住ませることは全く別問題である。」

### 10) 優しさをもって人々に真理を教える指導者: 第8章

これはネヘミヤが言い渡し、エズラが導いた驚くべき全国家召集の物語である。その目的は、人々を神のみ言に従順に耳を傾ける生き方へと呼び戻すことであった。

水の門の前にある広場で、あけぼのから正午まで、男女および悟ることのできる人々の前でこれを読んだ。民はみな律法の書に耳を傾けた。学者エズラはこの事のために、かねて設けた木の台の上に立ったが、彼のかたわらには右の方にマッタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤが立ち、左の方にはペダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシュム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシュラムが立った(ネヘミヤ記8:3, 4)。

バビロニア/ペルシャで長期間拘束されたユダヤ人の多くは、ヘブライ語の能力を失っていたので、教師と通訳は、神のみ言を正しく理解するために手助けする必要があった。

エシュア、バニ、セレビヤ、ヤミン、アックブ、シャベタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバデ、ハナン、ペラヤおよびレビびとたちは民に律法を悟らせた。民はその所に立っていた。彼らはその書、すなわち神の律法をめぐりに読み、その意味を解き明かしてその読むところを悟らせた(ネヘミヤ記8:7, 8)。

教え(おそらく、主との最初の契約に関連する祝福と呪い)の意味を理解したとき、人々は、泣き始めました。メッセージの重さにかかわらず、指導者たちは人々を励ました。

そして彼らに言った、「あなたがたは去って、肥えたものを食べ、甘いものを飲みなさい。その備えのないものには分けてやりなさい。この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。主を喜ぶことはあなたがたの力です」。レビびともまたすべての民を静めて、「泣くことをやめなさい。この日は聖なる日です。憂えてはならない」と言った(ネヘミヤ記8:10, 11)。

翌日エズラは、イスラエルの指導者たちと特別に聖書朗読の時間を持った。そのとき 仮庵祭に関する元の律法を見つけた(レビ記23:33-40)。これは、彼らがモーセ五書(創世記-申命記)を読んでいったという明確な指標である。彼らは直ちにみ言に従い、全国的な饗宴の祭を催した。日々エズラは、神のみ言を公に朗読した。

**8:16** それで民は出て行って、それを持って帰り、おのおのその家の屋根の上、その庭、神の宮の庭、水の門の広場、エフライムの門の広場などに仮庵を造った。**8:17** 捕囚から帰って来た会衆は皆仮庵を造って、仮庵に住んだ。ヌンの子ヨシュアの日からこの日まで、イスラエルの人々はこのように行ったことがなかった。それでその喜びは非常に大きかった(ネヘミヤ記8:16, 17)。

「エズラは心をこめて主の律法を調べ、これを行い、かつイスラエルのうちに定めとおきてとを教えた(エズラ記7:10)。」というエズラの神への個人的献身については、すでに学んできました。ここで、エズラがイスラエル国家全体に神のみ言に耳を傾け、従うよう呼びかけています。当時の人々は、個人用の聖書の複写を所有していなかったので、神

のみ言に触れるためには、このように公の場に集まって、朗読を聞く必要がありました。使徒パウロは若い牧師テモテに、「わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい（1テモテ 4：13）。」と記しました。あなたは、グループで、神のみ言を声に出して読むことがありますか？ これまでに一度も行ったことがない方は、是非、試してみてください。神のみ言を読んだ後、それが何を意味し、それが個人的に、あなたにどのような影響を与えるかをグループとして話し合う場を持ちましょう。

#### 11) 過去の罪を認め、神のあわれみを求める指導者：第 9 章

第 9 章は、聖書に記録されている最も長の祈りの箇所であり、その焦点はただ一つ、イスラエル国家の罪を再考し、それを神に告白することである。エズラが彼らに聖書を朗読し始めた 24 日後に国家が集まった。レビ人の祭司によって導かれて、一丸となって神に心を注ぎました。

**9:3** 彼らはその所に立って、その日の四分の一をもってその神、主の律法の書を読み、他の四分の一をもってざんげをなし、その神、主を拝した（ネヘミヤ記 9：3）。

祈りの大部分（ネヘミヤ記 9：5-31）は、神に反抗するイスラエルの民が、エジプトから救出された日から、この日までの約 1000 年間の神と民との関係について語っています。神の民であるイスラエルは、繰り返し、神に背を向け、神の道を歩むことを拒みましたが、それでも、その民への神の忠実さとあわれみ深さは変わらなかった。最後の部分（ネヘミヤ記 9：32-37）は、神が民の必要を知ってくださり、信仰生活を再建しよう

としている民を見守ってくださるようというネヘミヤの執成しの祈りであった。

これほど多くの罪の告白が必要であったのはなぜでしょうか？ 罪は、私たちと神との交わりを妨げ、神の御力が生活に流れ込むことを妨げてしまうからです。そして、神のみ前に罪の告白がなされることによって、人間と神との関係が再開されます。聖書は、私たちの先祖の罪が受け継がれ、四世代まで影響を与えていると言っています。私たちや子供たちや孫たちに至って、現れている罪を見分け、罪を言い表し、罪を認め、罪を悔い改めることが聖書の教えです。些細な家庭内の罪（欺瞞、淫乱、中毒、怒り、頑固さ、怠慢、誇りなど）であると思っておられるような罪であっても、真剣に、心から神に罪を告白しましょう。また私たちの先祖が犯した罪や、社会的に犯した罪の赦しさえも求めましょう。私たちの子孫たちが先祖の罪の影響から解放されて生きることが出来るために、神は、代々継続してきた罪の連鎖のパターンを打ち砕いてください。罪の告白をしたなら、神は即時に赦してくださいませ。神による赦しを感謝しましょう（参照：詩篇 32 篇、第一ヨハネ 1：9）。

#### 12) 主との契約に厳粛な指導者：第 9 章 38 節 - 10 章 39 節

指導者たちは、ヤハウエなる神との契約に従順に従うと約束する文書に署名した。

**10:29** その兄弟である尊い人々につき従い、神のしもべモーセによって授けられた神の律法に歩み、われわれの主、主のすべての戒めと、おきてと、定めとを守り行うために、のろいと誓いとに加わった（ネヘミヤ記 10：29）。



書類上の言葉は行動を保証することはありませんが、あらゆる人が証人となるという点で、約束を刻むことは賢明なことです。これは、神と歩む決断を厳粛にするだけでなく、私たちの「誓い」の証人たちに対しても説明する責任を負っていただくこととなります。証人が見守る中、書面に記して、神に対して誓う必要のある重要な事柄はないでしょうか？

### 13) 長期的な成功を見極める力を持つ指導者：11：1-12:26

先に述べた通り（7章）、ネヘミヤは、エルサレムの町に、ヤハウエなる神との契約に従順に歩むことを誓ったユダヤ人を住まわせることを重視した。第11、12章の目録は、新しく復元された城壁内に住むために選ばれた人々の名前を公文書の中に記録することを目的としていた。

### 14) 仲間との勝利を祝う指導者：12：27-47

二組の大きな聖歌隊が、新しい壁の上をそれぞれが反対方向に進みながら賛美した。それから神殿でそれぞれの位置に着き、成し遂げられたすべてにおいて、盛大に神を賛美し続けた。

**12:42** マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラムおよびエゼルも共にいた。そして歌うたう者たちは声高く歌った。エズラヒヤはその監督であった。**12:43** こうして彼らはその日、大いなる犠牲をささげて喜んだ。神が彼らを大いに喜び楽しませられたからである。女子供までも喜んだ。それでエルサレムの喜びの声は遠くまで聞えた。  
(ネヘミヤ書12：42，43)

### 15) 人々を神の御心へと向けさせる指導者：第13章

エルサレムに12年間滞在した後（ネヘミヤ記2：1と13：6を比較しましょう。）、ネヘミヤは、ペルシャのアレクセルクセス王のところに戻りましたが、しばらくして、エルサレムの総督として引き続きイスラエルのために任務を遂行するために、恒久的な休暇が与えられた。ネヘミヤがエルサレムに戻ったとき、大祭司エリアシブが、アモン人のトビア（城壁建設の際のネヘミヤの大敵）が大部屋に住むことを許していたことを知り、驚愕した。その部屋は、神殿で仕えた祭司たちへの人々からの支援物資を保管するために用いることになっていた。その結果、祭司たちは、神殿職を退き、生活のために、それぞれの家や畑に帰ってしまっていた。

**13:8** わたしは非常に怒り、トビヤの家の器物をことごとくそのへやから投げだし、**13:9** 命じて、すべてのへやを清めさせ、そして神の宮の器物および素祭、乳香などを再びそこに携え入れた。**13:10** わたしはまたレビびとがその受くべき分を与えられていなかったことを知った。これがためにその務をなすレビびとおよび歌うたう者たちは、おのおの自分の畑に逃げ帰った。**13:11** それでわたしはつかさたちを責めて言った、「なぜ神の宮を捨てさせたのか」。そしてレビびとを招き集めて、その持ち場に復帰させた（ネヘミヤ書13：8－11）。

ユダヤ人たちは、ネヘミヤの短期間の不在中に、さ迷い漂流した。安息日に休む代わりに、商売し、町は、神の聖日に交易のための市場へと一変していた。イエス様が神殿の両替所のテーブルをひっくり返されたように、ネヘミヤも、安息日にエルサレムで行われていた、あらゆる商売を止めさせ

た。ネヘミヤは、人々が安息日に商品を持って町に入るのを防ぐために警備員を配置した。

ネヘミヤはまた、他国の女をめとる習慣が再び広まったことを知った。男たちは、ペリシテ人の女、アモン人の女、モアバイト人の女をめとっていた。彼らの子供たちの半分は、ヘブライ語がわからなかった。大祭司、エルヤシブの息子までも、ネヘミヤの生涯の敵、サヌバラテの娘と結婚した。改革者であるネヘミヤは、生涯、捕囚から帰還したイスラエルの民が同じ古い罪を繰り返さないように改革し続けたと言えるでしょう。

### ディスカッションの質問

聖書は、この忠実な指導者ネヘミヤの模範を神に従いたいと願うすべての人のために展示しています。従者として、また指導者として、ネヘミヤ記には、重要な原則が多くあります。以下の15の原則を見直し、今、最も自分にとって重要であると感じることについて、あなたのグループと話し合みましょう。

- 1) 指導者は、人々に深く共感し、神に動いていただくよう願う：第1章
- 2) 指導者は、深い信念に基づいて信仰をもって動く：第2章1-10節
- 3) 指導者は、状況を見定めて戦略を練る：第2章11-20節
- 4) 指導者は、チームワークの力を解き放つ：第3章

- 5) 指導者は、反対者によって目的から逸らさせない：第4章
- 6) 指導者は、その権限のもとで、すべての人々を世話する：第5章
- 7) 指導者は、個人的な誠実さが不可欠であることを知っている：第6章1-14節
- 8) 指導者は、仕事が完了するまで忍耐強く粘る：第6章15節-7章3節
- 9) 指導者は、正しい人を正しい場所に置く：第7章4-73節
- 10) 指導者は、恵み深く人々に真理を教える：第8章
- 11) 指導者は、過去の罪を認め、神のあわれみを求める：第9章
- 12) 指導者は、誓いを厳粛にする：第9章38節-10章39節
- 13) 指導者は、長期的な成功を見極める：第11章1節-12章26節
- 14) 指導者は、チームとの勝利を祝う：第12章27-47節
- 15) 指導者は、人々を神の御心へと向けさせ続ける：第13章